

IV-3-4 単元「開け！世界への扉」 (一色町立一色中学校 第3学年)

1 単元指導計画

1-1 単元名「開け！世界への扉」(全69時間)

担当者 伊藤 宏

1-2 単元設定の理由

(1) 生徒の実態

生徒は、前単元「見つめよう、僕らの21世紀」で、環境、福祉、教育、文化、経済、国際協力について、身近な地域から日本あるいは世界に追究の目を広げながら社会を見つめていった。その過程で社会への関心を高め、自ら関わっていかこうとする意欲をもち始めた。その一人M子は、単元終了後に「私は、まだ社会のことを少ししか分かっていない。社会には、解決すべきたくさん問題がある。もっといろんなことを知りたい。そして、自分のできることを行動していきたい。」という感想を書いている。この言葉にみられるように生徒達は、社会への関心を高め、自ら関わりをもっていかこうと意欲をもち始めている。このような学習のうえにたつて、本単元では、生徒の社会を見つめる目を世界的な視野まで広げ、自分の生き方を模索し、実践していく気持ちを育てたいと考える。

また、これまでの単元の実践を進める中で、「自分達のできることに、限界がある。地域の人に伝える活動に力を入れていかこう。」というように、発信活動の重要さに気づくことができた。このような発信活動の内容とその効果について深く考える態度を今後いっそう伸ばしていきたい。そして、地球市民として、今後の自分の生活を考えさせたい。

(2) 教師の願い

これまでの生徒の学習歴のうえにたち、本単元では個々の生徒が世界の現状についてもった気づきや問題意識をもとに追究活動をすすめて、その結果をもとに発信活動を行う展開を計画している。そして、本単元の内容は、「一色町の小・中学校における生活科・総合的な学習の内容系列表」の命・生き方(ア)の内容を展開したい。

単元の導入部分の気づきや問題意識の掘り起こしでは、前単元で国際協力について追究した生徒の発表を聞いたり、世界の現状を知らせるビデオを視聴したりしながら、「調べてみたい」「何とかしたい」という切実感をもった思いが芽生えてくるように配慮したい。課題設定の場面では、「何のために(目的)」「何を(対象)」「どのように(方法)」を意識させて課題設定させ、自分の発信活動に対する価値と実践への見通しをもって臨んでいけるようにしたい。なお、学級の全体テーマは『世界の子供達に対して～今、自分達にできること～』とする。

追究の場面では、ストリートチルドレン、少年兵など同じ目的や対象を選んだ者同士

でグループを作らせ、グループの追究計画や、追究の分担をもとにした個人の追究計画を立てたうえで、追究活動に取り組みさせていきたい。追究活動については、次の4点の内容について配慮していきたい。①追究の対象に対して、新聞記事、インターネットを利用した調べ学習。②世界の子供達のために自分達にできることの調査。③世界の子供達のために活動している「人（NGO）から学ぶ」活動を取り入れる。④追究活動の見直しの場面を設定し、生徒自身が自分の課題や追究方法を改善していくようにする。

実践活動の方法は、これまでの学習における生徒達の気づきを生かし、地域への発信活動に特に力を入れて取り組ませていきたい。そのためにも発信活動では、それまでの追究の成果を生かすために、誰に（子供、大人、町民全体、周辺の市長の住民）伝えるべきか、またより効果的な方法（冊子、チラシ、情報メディア、催しの企画など）は何かをよく検討させ、生徒の活動意欲を高めたり、思考力・判断力を駆使させたり、満足感や充実感を味わわせたりしていきたい。また、実践の準備やふりかえりの場面では、自分達の追究の甘さや企画の不十分な点に気づき、改善していくといった展開が予想され、自己評価力や自己学習力を自ら高めていってくれることを期待している。

以上のような一連の活動を通して、今の自分の生活を見つめ直し、今後の自分の生活を考え、地球市民としての自覚をもって実践する気持ちを高めていきたい。

1-3 単元の目標

地球的な視野にたって問題を発見し、自ら設定した課題の追究を通して、地球市民の一員としての自己の生き方を見つめ、問題解決のために行動する意欲を高め、自己のできることを地域に発信する工夫をし、実践することができる。

1-4 単元の評価規準

○関心・意欲・態度

- ①世界に視野を広げ、地球市民として世界の現状に関心を持ち、積極的に調べようとする。
- ②問題解決のために行動する意欲を高め、自分達が考えた地域への発信活動の準備や実践に積極的に取り組もうとする。

○思考・判断

- ①課題を設定したり、追究内容や追究方法の見直しをしたりすることができる。
- ②追究の成果をどのような方法で発信をすれば効果的であるか考えたり、その価値を判断したり、地球市民としての今後の自分の生活のありかたを考えることができる。
- ③これからの世界の子供達の実態と自分や地域の生活との関わりを考えることができる。

○技能・表現

- ①世界の子供達についての調査を、仲間と協力して進め、クラスの仲間に分かりやすく発表することができる。
- ②世界の子供達について調べたことや学んだことを分かりやすくまとめたり、冊子やチラシ、催しの開催などを通して、伝えたりすることができる。

○知識・理解

①世界の子供達の現状について理解する。

②世界の子供達に対する取り組みや対策などから、世界の子供達を支援するための工夫や苦勞を理解する。

1-5 学習過程と評価計画

学習活動	支援 (方法・内容)	評価規準				評価資料
		関心意欲態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
<p>1 「世界がもし100人の村だったら」のビデオテープの視聴や話し合いをもとに個人課題を設定する。(8)</p> <p>①前単元で国際協力について追究した生徒の発表を聞いたり、世界の現状を知らせるビデオテープを視聴し、全体テーマを知る。(3)</p> <p>②学級での感想の話し合いから、資料を持ち寄り、追究の領域を絞り、個人課題を設定する。(3)</p> <p>③追究の計画づくりをする。(2)</p>	<p>・前単元「見つめよう、僕らの21世紀」で国際協力について追究した生徒の発表を聞き、その発展として、地球的な規模で追究を進めようとする意欲を喚起する。そして、「世界がもし100人の村だったら」のビデオテープを生かし、世界に存在する様々な子供達をとりまく問題や興味深い事象に目を向けさせる。</p> <p>・前記のビデオテープを見た感想を話し合ったり、素朴な疑問や興味・関心を大切にしたりすることで、全員が追究対象を世界の子供達として意識化できるようにする。</p> <p>・関わり合い(話し合い)から、ストリートチルドレン・少年兵など、世界の子供達について追究できるよう領域を絞る。</p> <p>・何をどんな方法で調べるのかを計画させる。</p> <p>・日程や内容、方法について記述するワークシートを用意する。</p>	①				学習プリント
			①			学習プリント
			①			学習プリント
<p>2 計画にもとづき追究活動を行う。(32)</p> <p>①追究(調査活動・交流活動・体験</p>	<p>・追究は、①調査活動から始まり②交流活動③体験活動④実践活動へと深まって</p>	①		①		学習プリント ふりかえりカード

活動・実践 活動)を進める。(12)	いく場合と、4つの活動が並行して進む場合がある。		①	学習プリント
②学級内の中間報告会等で、課題の再検討や追究方法の見直しを行い、追究を補う。(12)	・活動の進捗状況を見極めながら、数グループ(ストリートチルドレン・少年兵)の追究を報告する授業や全員で考え合う授業を行うことで追究を深め、追究の視点の改善を図る。(①追究対象に対して、調べ学習は十分か②自分達にできることの調べまで追究が及んでいるか③NGOなど、人から学ぶ活動を取り入れているか)	①	② ①	学習プリント 学習プリント ふりかえりカード
③追究の成果をまとめる。(8)	・追究の成果を個人でレポートにまとめる。		①	学習プリント
3 追究の成果を発信する。(25)	・追究の成果を伝えるのにふさわしい相手(家族・子供・高齢者・地域の人々など)を選び、相手にどのような方法で伝える(劇・紙芝居・冊子・マスコミなど)のが効果的か十分考えさせる。	②		学習プリント
①成果を伝える対象・方法を考える。(7)				
②計画を立てて準備をする。(10)(含:相手先、訪問先との交渉)	・相手先へ訪問するための交渉の内容を検討させる。 ・相手の意見も取り入れて発信活動ができるようにさせる。	②	②	ふりかえりカード ふりかえりカード
③発信活動をする。(8)	・発信活動を進めながら、必要に応じて話し合いの場を設定し、自分達の手で、改善をさせていく。	②	②	ふりかえりカード 学習プリント
4 活動をまとめる。(4)	・発信活動の様子と感想を出し合い、これからの世界と自分のかかわりについて考えたり、それについて学級内で話し合わせる。	③	②	学習プリント 学習プリント
①活動を通して学んだことを話し合う。(2)		③	②	学習プリント 学習プリント

②地球市民として、これから自分のできることをまとめる。(2)	・話し合いを受け、これからの自分の生き方について考えたことをレポートにまとめさせる。		②		学習プリント
--------------------------------	--	--	---	--	--------

1-6 評価基準

学習活動	評価基準	学習活動における具体的な評価基準	評価資料	評価基準		
				A (3)	B (2)	C (1)
1 ①前単元で国際協力について追究した生徒の発表を聞いたり、世界の現状を知らせるビデオテープを視聴し、全体テーマを知る。	関心・意欲・態度①	世界に視野を広げ、地球市民として世界の現状に関心を持つとする。	学習プリント	世界の現状について調べてみたい事象を3つ以上書いている。	世界の現状について調べてみたい事象を1つ以上書いている。	世界の現状について調べてみたい事象を書いていない。
②学級で感想を話し合ったり、資料を持ち寄り、追究の領域を絞り、個人課題(調査の目的と対象)を設定する。	思考・判断①	話し合いや資料から調べてみたい内容を見つけ、自分の追究の目的と対象を書くことができる。	学習プリント	世界の子供達の何を(対象)何のために(目的)追究したいのか書いている。	世界の子供達の何を(対象)追究したいのか書いている。	目的も調査対象も書いていない。
③追究の計画づくりをする。	思考・判断①	追究の計画を立てることができる。	学習プリント	学習プリントの日程、内容、方法(どのように)の3つの項目すべてに記述し、自分の計画を立てている。	学習プリントの1つ以上の項目を記述している。	学習プリントの3つの項目を記入していない。
2 ①追究(調査活動・交流活動・体験活動)を進める。	関心・意欲・態度①	計画にもとづいて、追究を進めようとする。	学習プリント(数回)	総合学習の時間だけでなく、家庭でも追究を進めている。	総合学習の時間のみ追究を進めている。	自分の立てた計画にもとづいて追究を進めていない。または、遅れている。
	技能・表現①	世界の子供達について、事実(インターネット、文献など)や、体験(交流活動など)に基づいて、追究することができる。	ふりかえりカード	世界の子供達の実態について、複数の方法を使って調べている。(①調べ学習、②自分達にできることの調査、③交流活動)	世界の子供達の実態について、一つの方法で調べている。(①調べ学習、②自分達にできることの調査③交流活動)	世界の子供達の実態について、調べていない。
	知識・理解①	世界の子供達の現状や対策を具体的に知ることができる。	学習プリント	調べた結果をもとに、世界の子供達に関する現状や対策を項目立てて3つ以上まとめている。	調べた結果をもとに、世界の子供達に関する現状や対策を羅列的にまとめている。	調べた結果をもとに、世界の子供達に関する現状や対策を整理できていない。

②学級内の中間報告会で、課題の再検討や追究方法の見直しを行い、追究を補う。	技能・表現②	世界の子供達について調べた結果を仲間に伝えることができる。	学習プリント	調査の結果を整理し、追究課題、調査の方法、結果、考えたこと、今後の課題を仲間に分かりやすく説明し、質問に答えている。	調査の結果を整理し、追究課題、調査の方法、結果、考えたこと、今後の課題を仲間に説明している。	調査の結果を整理して、仲間に説明していない。
	思考・判断①	仲間の考えを参考にしながら、追究方法の見直しを行うことができる。	学習プリント	追究の内容や方法についての修正点や追加点を目的意識や方向性を持って書いている。	追究の内容や方法についての修正点や追加点を書いている。	追究の内容や方法についての修正点や追加点を書いている。
	技能・表現①	世界の子供達についての調査を見直し、追究を補うことができる。	ふりかえりカード	見直した追究内容や方法に、随時修正を加えながら、追究を進めている。	はじめに設定した追究内容や方法にとどまって、追究を進めている。	自分の設定した追究の内容や方法にもとづいて、追究をしていない。
③追究の成果をまとめる。 (現状、対策、支援)	知識・理解①	世界の子供達の現状や対策を知ることができる。	学習プリント	世界の子供達に関する現状や対策を3つ以上レポートにまとめている。	世界の子供達に関する現状や対策を1つ以上レポートにまとめている。	世界の子供達に関する現状や対策をレポートにまとめている。
	知識・理解②	追究の結果から、界の子供達を支援するための工夫に気づくことができる。	学習プリント	追究の結果から、世界の子供達を支援するための工夫について3つ以上レポートにまとめている。	追究の結果から、世界の子供達を支援するための工夫について1つ以上レポートにまとめている。	世界の子供達を支援するための工夫についてレポートにまとめている。
3 ①成果を伝える対象・方法を考える。	思考・判断②	追究の成果を伝えるべき相手に対して、効果的な手段(紙芝居・冊子・マスコミ・劇)を考えることができる。	学習プリント	追究の成果を伝えるべき相手に対して、効果的な手段を3つ以上書いている。	追究の成果を伝えるべき相手に対して、効果的な手段を1つ以上書いている。	追究の成果を伝えるべき相手に対して、効果的な手段は何か、書いている。
②計画を立てて準備をする。	技能・表現②	追究の成果を発信する準備を進めていくことができる。	ふりかえりカード	発信相手の意見も取り入れて、準備している。	自分自身の計画で準備している。	計画したように準備していない。
	関心・意欲・態度②	実践のための準備に意欲的に取り組もうとする。	ふりかえりカード	発表原稿のまとめや発表の練習、相手先との交渉などの作業を行いながら、準備に取り組んでいる。	発表原稿のまとめや発表の練習、相手先との交渉などのうち、1つ以上の作業を行いながら、準備に取り組んでいる。	自分の分担に責任をもって取り組んでいない。
③発信活動をする。	関心・意欲・態度②	自分の役割に責任を持ち、準備した発信活動に取り組もうとする。	ふりかえりカード	自分の役割を果たし、仲間とも助け合いながら発信活	自分の役割を果たしながら、発信活動に取り組んで	自分の役割を果たして、発信活動に取り組んでい

				動に取り組んでいる。	いる。	い。
	思考・判断②	実践をふりかえり、本時により効果的な発信活動に改善することができる。	学習プリント	実践をふりかえり、伝える相手の立場に立って、より効果的な発信活動に改善する方法を考えている。	実践をふりかえり、より効果的な発信活動に改善する方法を考えている。	より効果的な発信活動に改善する方法を考えていない
4 ①活動を通して学んだことを話し合う。	思考・判断③	これからの世界の子供達の実態と自分や地域の生活との関わりを考えることができる。	学習プリント	仲間の発表から、世界の子供達の実態と自分や地域の生活とのかかわりを3つ以上書いている	世界の子供達の実態と自分や地域の生活とのかかわりを1つ以上書いている。	世界の子供達の実態と自分や地域の生活とのかかわりを書いていない。
	知識・理解②	世界の子供達に対する取り組みや対策などから、世界の子供達を支援するための工夫や苦勞を理解する。	学習プリント	世界の子供達を支援するための苦勞について、例をあげて自分の考えを入れて、3つ以上書いている。	世界の子供達を支援するための苦勞について、自分の考えを入れて、1つ以上書いている。	世界の子供達を支援するための苦勞について、書いていない。
②地球市民として、これから自分にできることをまとめる。	思考・判断②	これまでの追究をふまえ、地球市民として、今後の自分の生活を考え、自分にできることをまとめることができる。	学習プリント	これまでの追究をふまえ、地球市民として、今後の自分の生活でどんな活動ができるか理由や見通しを持って3つ以上書いている。	これまでの追究をふまえ、地球市民として、今後の自分の生活で、どんな活動ができるか1つ以上書いている。	地球市民として、今後の自分の生活で、どんな活動ができるか、これまでの追究をふまえ、書いていない。

2 授業と評価の実践

2-1 授業と評価の一体化の実践

学習活動1 ①前単元で国際協力について追究した生徒の発表を聞いたり、世界の現状を知らせるビデオテープを視聴し、全体テーマを知る。

(1) 指導・学習の過程


まず単元のはじめに、前単元「見つめよう、僕らの21世紀」で国際協力について追究した生徒の発表を聞いた。また、「世界がもし、100人の村だったら」のVTRで、「全く違う世界が見えた」「想像してたより世界は深刻」「この世界にはいろんな人達がいる。考えさせられる。」など、生徒たちは世界には自分達が知らないことがたくさんあることを確認し、世界の子供達を取り巻く問題（貧困、虐待、少年兵、病気）があることを知った。

資料 「世界がもし、100人の村だったら」のVTRの視聴と世界の子供達を取り巻く問題（貧困、虐待、少年兵、病気）の確認の後の学習カード

「世界がもし、100人の村だったら」のVTRを見て、あなたはどう思いましたか？

VTRを見て、私は今15才で、親とかの助けがないと生きていけないくらい無力です。でも10才か8才の子が「親がなくなるとして、親からの暴力などで」一人で生きていかなければならないというまじしい状況にゆるさねえ。という状況があるということにふと気づいています。しかも軍下の子がほとんどで（VTRの中だと）、働きの金をかせがなければ食べられない生きていけない状況で、今の私のまわりでは、ほいとは、お弁当が入り、おたけい家で「あなたのおいしたべたて、生きていけます。でもみんな子供がいれば、おもしろいおもしろい。そのまじいなくなると、そういう子供は減っていくと思えます。VTRを見た時に「いい悪いはない」と思いますが、でもどうしてこの「おたけい」を思う。かあいう？ おお、おもしろい人たよなと

と思いました。



自分と同じくらいの子供達が食べる物やお金がなく、親もいなく、その子達に恵んであげる人も少なく、家ではなくマホールの中でくらしていたりして、とてもかわいそうだと思った。

(2) 評価結果

「世界がもし、100人の村だったら」のVTRの視聴と世界の子供達を取り巻く問題（貧困、虐待、少年兵、病気）の確認の後の学習カードの記述の内容から評価した結果、以下ようになった。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
関心・意欲・ 態度①	世界に視野を広げ、地球市民として世界の現状に関心を持つとする。	8人	26人	2人

(3) 指導の改善と実施

前単元からのつながりから、生徒の社会を見つめる目を世界に広げ、VTRを視聴したことで、世界の現状について関心を持つことはできた。評価3の生徒が少なくなったのは、世界の現状について調べてみたい事象を2つ書いている生徒は、半数以上いたが、3つ以上書いている生徒は8名と少なかったためである。調べてみたい事象を書いていない生徒は、学習カードの書き方がよくわからず、うまくまとめることができなかつた生徒であつ

たため、個別に対話をし、支援したところ、うまくまとめることができた。

学習活動1 ②学級での感想の話し合いから、資料を持ち寄り、追究の領域を絞り、個人課題を設定する。

(1) 指導・学習の過程

家庭のインターネットや新聞記事に目を通して、世界に目を向け調べ出す生徒もいる。しかし、このままでは一部の生徒による追究活動のみが進められたり、方向性のないまま追究が進められることが危惧された。そこで、「世界がもし、100人の村だったら」のVTRの感想より関わり合いの授業を持った。「VTRの子供達は、年下か同じ年くらい」「子供なのにあんなつらい思いをしている」「世界にはかわいそうな子供がたくさんいる」など、『世界の子供達』に興味をもって調べてみたいという意見と「ストリートチルドレンに食べ物をおくってあげたい」「身近なことだと知って少し考えた方がいい」「これを知って、だからどうするかが大切。かわいそうでおわっちゃだめだと思う」など『自分達にできること』について何とかしたいという意見の2つに大きく分類でき、追究の領域を絞ることができた。

資料 話し合いと資料の持ち寄りの後の学習カード

個人追究テーマを考えよう

個人テーマ

どうすれば"ストリートチルドレン"を減らすことができるのか。

テーマ設定の理由

何のために(目的)、そのテーマで調べるのか?

私達は、今、周りにたくさん物があふれ、すぐ手に入り、何も生活するに不自由な事はないというのか、あたりの子供が親に捨てられたり、暴力をうけたりして街にいるストリートチルドレン達は、自分の生活にせめて、と聞きまわるとなると子供達がどうすれば"生活が"送れるようになるのかというのを調べようと思ったから。

①

(2) 評価結果

話し合いと資料の持ち寄りの後の学習カードの記述の内容から評価した結果、以下のよ

うになった。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
思考・判断①	話し合いや資料から調べてみたい内容を見つけ、自分の追究の目的と対象を書くことができる。	16人	18人	2人

(3) 指導の改善と実施

評価2の生徒18名は、調査対象のみを書いている生徒である。これは、目的意識について十分考える時間をとり、書けない生徒には、対話などを通して考えさせなかった教師側の原因が大きいと考える。評価1の生徒2名は、頭では考えているが、学習カードに記述できなかったため、対話をすることで記述することができた。関わり合いから追究の領域を絞ったことで、全員が調べてみたい調査対象を明確にすることができたと考える。

学習活動1 ③追究の計画づくりをする。

(1) 指導・学習の過程

一人で調べていくには情報量が少ない。グループを作って分担して活動を進めた方が効率的であることから、似かよった追究をしている者同士でグループを作ることにした。グループは「ストリートチルドレン全般を追究するグループ」が5グループ、「世界の子供達に対して自分達にできることを調べるグループ」が4グループ、「難民について追究するグループ」、「子供達とエイズについて追究するグループ」がそれぞれ1グループとなった。そして、グループ内でインターネットで調べる生徒、文献で調べる生徒等、調べ方を分担して追究計画を立てるグループもあれば、ストリートチルドレンの実態調査、私達にできること調査、アポ取り等、内容を分担して追究計画を立てるグループもあった。

資料 追究の計画づくりの学習カード

グループで話し合い、追究計画を立てよう

日程	内容	方法 (誰がどのような活動をするか)
12日(金)	調べる { ストリートチルドレンのくらし (あゆみ) ストリートチルドレンについて活動している人 (真紀) 自分達にできること (千絵)	インターネット

(2) 評価結果

追究の計画づくりの学習カードの記述の内容から評価した結果、以下のようになった。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
思考・判断①	追究の計画を立てることができる。	20人	10人	6人

(3) 指導の改善と実施

グループでの話し合いをもとにして、生徒一人一人に追究計画を立てさせた。追究計画がしっかり立てられていなければ、今後の追究ができないと考える。そこで、日程・内容・方法の3つの項目が記入できない生徒が2と評価した生徒10名と1と評価した生徒6名である。16名には、今後の総合学習の日程を配布して説明したりと、教師の出を多くするとともに、できている生徒の計画を例として発表させた。全員を3の評価レベルまで上げることができたと考える。

学習活動2 ①追究（調査活動・交流活動・体験活動・実践活動）を進める。

(1) 指導・学習の過程

追究計画の日程・内容・方法の3つの項目をしっかりと考えさせたことで、スタート時は、全ての生徒が意欲的に追究を進めることができた。また、追究前にふりかえりカードを配布し、総合学習の時間だけでなく、家庭でも追究を進めるよう投げかけるとともに、教室に総合学習追究コーナーを設け、互いに追究した成果を見合えるよう配慮した。

(2) 評価結果

追究をまとめるプリントを毎時間チェックし朱書きを入れながら評価した結果、以下のようになった。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
関心・意欲・ 態度①	計画にもとづいて、追究を進めようとする。	7人	27人	2人

(3) 指導の改善と実施

3の評価をした生徒は、「図書館に出かけて、関係する本をさがした」や「家のインターネットを使って調べた」等、総合学習の時間だけでなく、家庭に帰ってからでも追究を進めていった。また、2と評価した生徒についても、「家で調べることはできなかったが、次回からは調べたい」等、現在の自分自身の追究をふりかえることで、今後のよりよい追究へ向けての記述が多くあった。自分の立てた計画にもとづいて追究を進めていない、または、遅れている生徒は、「仲間の追究に興味を持ってしまい追究が遅れてしまった」「仲間と協同で作業したことで、たよりきってしまった」生徒であったため、個別に対話をしして支援したところ、計画にもとづいて追究を進めることができた。

(4) 評価結果

追究を進める中で記述した「ふりかえりカード」の記述の内容から評価した結果、以下のようになった。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
技能・表現①	世界の子供達について、事実や体験に基づいて、追究することができる。	6人	28人	2人

(5) 指導の改善と実施

世界の子供達の実態について、複数の方法（①調べ学習②自分達にできることの調査③交流活動）で調べている生徒は6名と少ない。ほとんどの生徒が①の調べ学習のみである。しかし、②の自分達にできることの調査から支援している団体に出会ったり、自分達にできることがあることを発見する生徒も少しずつでてきている。また、6名の生徒は、電話やメールを通して交流活動を始めようとしている。ここで、中間報告会、関わり合いの時間を設けることで、自分の追究を見直し、今後の追究を確かなものにしていく必要があると感じる。調べが進んでいない2名の生徒には、個別に残して、教師とともに追究を進めていった。

資料 世界の子供達の現状や対策をまとめる学習カード

開け、世界への扉 新聞

ストリートチルドレンの現状

○ストリートチルドレンとは？
 街の隅々にいる子ども達のこと。待合室を常駐。住家にはあり。食料の確保を受けられない。待合室を常駐。住家にはいる。食料は使われていない。住居や廃墟。ゴミを食料として食べている。ゴミを食料として食べている。ゴミを食料として食べている。

○ストリートチルドレンの現状
 2007年の推定によると、約3000万人。多くの子ども達がストリートチルドレンに悩んでいる。

○対策
 アフリカ、ラテンアメリカなど。

○ストリートチルドレンの年齢
 平均年齢は12歳。

(6) 評価結果

世界の子供達の現状や対策をまとめる学習カードの記述の内容から評価した結果、以下

のようになった。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
知識・理解①	世界の子供達の現状や対策を具体的に 知ることができる。	8人	28人	1人

(7) 指導の改善と実施

世界の子供達に対する現状や対策を3つ以上項目立ててまとめていると評価した生徒が8名に対し、羅列的にまとめている又は、3つ以上項目立てていない生徒が多数を占めた。2の評価をした生徒のほとんどが、①調べ学習、②自分達にできることの調査、③交流活動の複数を調べることができず、1つしか調べることができなかつた生徒である。これは、追究活動に十分な時間を確保できなかつたこと、対話や朱書き等を通して生徒一人一人の追究状況をしっかり把握できなかつた教師側の原因が大きいと考える。一方、追究の3つの視点をあらかじめ提示したことで、全員の生徒が今後の追究の方向性については、ある程度持っている。この後の追究を深め、追究の視点を明確にするため、中間報告会、関わり合いの時間を設け、①追究対象に対して調べ学習は十分か②自分達にできることの調べまで追究が及んでいるか③人から学ぶ機会を取り入れているか、再検討し、追究の見直しをさせたいと考える。

学習活動2 ②学級内の中間報告会等で、課題の再検討や追究方法の見直しを行い、追究を補う。

(1) 指導・学習の過程

世界の子供達の実態について、ほとんどの生徒が調べ学習のみである。しかし、自分達にできることの調査から支援している団体に出会ったり、自分達にできることがあることを発見する生徒や電話、メールを通して交流活動を始めようとしている生徒もいる。中間報告会では、自分の追究課題、調査の方法、結果、追究しての自分の考え、今後の追究をどうしようと思っているかを全員が発表した。

(2) 評価結果

世界の子供達の現状や対策をまとめる学習カードと中間報告会のための学習カードの記述の内容から評価した結果、以下のようになった。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
技能・表現①	世界の子供達について、調べた結果 を仲間に伝えることができる。	15人	21人	0人

(3) 指導の改善と実施

「自分の追究課題、調査の方法、結果、追究しての自分の考え、今後の追究をどうしようと思っているか」について全員発表することはできた。しかし、質問に対しうまく答えられずBと評価をした生徒が21名いる。これからの追究で①追究対象に対し調べ学習は十分か？②自分達にできることの調査まで追究が及んでいるか？③人から学活動（交流活動）を取り入れているか？の3点を振り返らせ、これからの追究活動の再度見直しを図らせた。

これまでの生徒の追究を見てみると、「何とかしたい」といった切実感を持ったものになっていないように感じる。また、個人またはグループで追究をしているもののクラスとしての目的意識、方向性がないことが「何とかしたい」という気持ちをもてないのではないかと考えた。

③の世界の子供達のために活動している「人から学ぶ」活動をしているY子は、国際ボランティアとして地雷撤去やストリートチルドレンなど世界の子供達について愛知万博で出展を計画するなど多方面に渡って活動されている榊原先生とメール交換を繰り返していた。

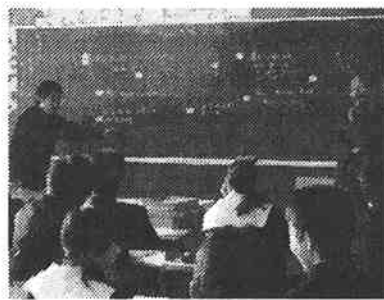
「どんな活動をしていますか？」「どうしてボランティア活動を始められたのですか？」と言った質問から交流していく中で、「ボランティアってどんなこと？」「Y子さんは、ボランティアをしたことがありますか？」という質問を受ける。解答に困ったY子は、グループ内の仲間と相談をし、「ボランティアは、良心で働くこと？自分から人のために何かすることでしょうか？」「私がしたボランティア活動と言えるものは、毎年、学校で行っているクリーン作戦ですか？それは、ボランティアだと思うけど、やらされているボランティアです。終わった後、しっかりやった人は、達成感、喜びみたいなものが残ると思うけど、ただめんどくさいで終わっている人もいる。」と返答した。

その後、「掃除した後、きれいになるかもしれないけど、来年には、また掃除しなければならぬ、だったら何の解決にもなっていないんじゃないの？」「校内や町を中学生が掃除しなければならぬほど汚すのは誰？クリーン作戦をしなくてもいいような校内や町にするために、Y子さん達は何ができる？何をすべき？」「世界の子供達に対しても同じで、Y子さん達は何ができる？何をすべき？」「この思考や議論が、大事なんじゃないですか？ここからがボランティアだと思うんですよ。」という言葉に出会う。

このY子の交流活動を、クラスに紹介し、投げかけた。そして、榊原先生を教室へ招き、お話を聞く機会を設けた。



「心で考えよう」と話をされる榊原先生



榊原先生とのチームティーチング

(4) 評価結果

話し合いの後の学習カードの既述の内容から評価した結果、以下ようになった。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
思考・判断①	仲間の考えを参考にしながら、追究方法の見直しを行うことができる。	28人	8人	0人

(5) 指導の改善と実施

「手紙、服、募金を送る」というY男の考えに賛成し、「世界では、3秒に一人の割合で、子供達が死んでいる」という事実から、緊急支援の必要性を訴える生徒もいれば、「その支援に頼り切ってしまう、自立できないでいる」といった自立支援の重要性に目を向ける生徒もいた。どの生徒もこれまでの追究に基づいて意見を発表することができた。そして、今までの自分の追究とは違った視点からの仲間の考えに目を向けることができた。3と評価した生徒が28名もいたことから、国際ボランティア等多方面で活動されている榊原先生との出会いから、これまでの話し合いの場面を持ったことは、追究を見直し、深めていく上で大変有効であったと考える。2と評価した8名は、修正点や追加点は書いているが、目的意識や方向性まで書けていない生徒である。これは、教師の評価3への基準が厳しかったためであると思われる。

学習活動2 ③追究の成果をまとめる。

(1) 指導・学習の過程

榊原先生とのチームティーチングで、ここまで「頭でよく考えてきた」「ここからはここ（胸に手を当てて）心で考えていこう」という言葉から、より一生懸命に追究を進めた生徒達は、これまでの追究の成果をB紙をまとめた。

資料 追究の成果をまとめる記述の内容

1 個人追究テーマ
ストリートチルドレンを支援する人について

2 テーマ設定の理由
「どの様な活動を支援しているのか知りたかったし、
私達にできることは何なのか知りたかったから。」

3 追究のまとめ
ベトナムの「子どもの家」を支援する会
ベトナム中部の首都・フエ市において、ストリートチルドレンの自立支援活動にあたり、ボランティアが不可欠

① ストリートチルドレン自立支援活動
「子どもの家」を建設
ベトナムのフエ市に50人といわれるストリートチルドレンの中心となる活動している。衣食住、通学が困難され、人間らしい生活が営めるようになる。
子ども69名、9名の養育、養母、医師など現地スタッフ等に生活している。日本人ボランティア、運営委員の委員、郵便物、国際ボランティア募金の交付を受けている。

② 奨学金支給
経済的困難のために、中学、高校、大学の通学を断念している生徒のために「奨学金」を設け、卒業まで支援する。

(2) 評価結果

追究の成果をまとめる記述の内容から評価した結果、以下ようになった。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
知識・理解①	世界の子供達の現状や対策を知ることができる。	30人	6人	0人

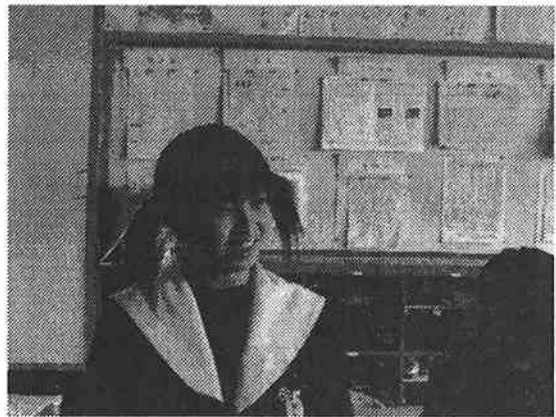
(3) 指導の改善と実施

生徒自身のやらせっぱなしの追究活動ではなく、中間報告会を設け、再度自分の追究を振り返る時間を設けたり、ゲストティーチャーとの出会いから話し合いの場面を設定したりと場面ごとに評価をし、それを指導にいかしてきた。そうすることにより、生徒一人一人がしっかりとした追究をすることができた。それが、まとめる時の生徒の自信になって評価3のまとめをした生徒が30名を越えたことにつながっていると感じた。6名の生徒も1つではあるが、まとめることはできている。

学習活動3 ①成果を伝える対象・方法を考える。

(1) 指導・学習の過程

「何ができる?」「何をすべき?」の投げかけに、緊急支援の必要性和自立支援の重要性に目を向けた生徒達は、グループ分けの後、今後の活動計画を立てた。「物を送りたい」「でも、1クラスの力では、限られている」と考えた生徒は、「これまで調べてきたことをいろいろな人達に知ってもらおう。」そうすれば、「協力してくれる」と考えた。



自立支援の必要性を訴える生徒

そして、成果を伝えるのにふさわしい相手は誰なのか、相手にどのような方法で伝えることが効果的なのかを考え始めた。

資料 追究の成果を伝えるべき相手とその手段について考える学習カード

1	<p>追究の成果を伝えるのにふさわしい相手は誰だろう?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生 ・一色町の人 <p>どうして、その相手がふさわしいと思いましたか?</p> <p>小学生は、まだあまり世界のことや知らないのと思っから、 一色町の人でも、スリット子供達のことや、あまり深く考えたことがないと思っし、知らぬや思っから。</p>
2	<p>どのような方法で伝えることが効果的だと思いますか?</p> <p>・小学生は、小学校へ行き、わかりやすく発表。 一色町の人、まとめ役のために、一色町の いろいろな人に知らせ。 公民館、学校、役場、B&Sなど</p>

(2) 評価結果

追究の成果を伝えるべき相手とその手段について考える学習カードの記述の内容から評価した結果、以下ようになった。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
思考・判断②	追究の成果を伝えるべき相手に対して、効果的な手段を考えることができる。	15人	21人	0人

(3) 指導の改善と実施

これまでの追究過程で、クラスまたはグループによる発表会等繰り返してきたこともあり、効果的な手段を1つも書いていない生徒は、いなかった。しかし、「まとめたことを発表する。ちらしにして配布する。」といった意見が多く、伝えるべき相手に対し、効果的な手段を3つ以上書いている生徒は、15名と少なかった。そこで、関わり合いの場面を持った。「小学生には、少し難しいから、発表するんじゃなくて、劇や紙芝居にして伝えた方がいい。」と考える生徒や「お年寄りには、大きな字にして冊子にした方が、分かりやすくていいと思う。」「町の回覧板や放送などを使って呼びかける」といった仲間の意見から、関わり合いの前に評価2とした生徒も効果的な手段をいくつも考えていくことができた。


学習活動3 ②計画を立てて準備する。

(1) 指導・学習の過程

追究成果を誰に発信するかによって、再度グループ分けを行った。その際、準備計画を立てさせ、誰がどの段階でどんな作業を行うのかを明確にした上で準備を進めた。

資料 発信の準備段階で書いた「ふりかえりカード」
開け、世界への扉

ふりかえりカード 3年 2組

日	活動のめあて	ふりかえり
11月 25日	追究の成果を発信する準備を進めていくことができる。	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>めあてに対して</p>  <p>3 発信相手の意見も取り入れて、準備している。</p> <p>2 自分自身の計画で準備している。</p> <p>1 計画したように準備していない。</p> </div> <div style="width: 50%; font-size: small;"> <p>発信</p> <p>自分が計画した通りに準備しているけれど、相手の意見を取り入れていないから。</p> </div> </div>

(2) 評価結果

発信の準備段階で書いた「ふりかえりカード」の記述内容から評価した結果、以下のようになった。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
技能・表現②	追究の成果を発信する準備を進めていくことができる。	16人	20人	0人

(3) 指導の改善と実施

前回の関わり合いから「小学生には、少し難しいから、発表するんじゃなくて、劇や紙芝居にして伝えた方がいい。」や「お年寄りには、大きな字にして冊子にした方が、分かりやすくいいと思う。」など発信相手のことを一番に考え、準備を進めることは全員の生徒ができた。しかし、相手先との交渉や相手の意見を取り入れた上で準備を進めるグループは、3グループ16人だけであった。ティームティーチングで、担任と副担任、榊原先生にも入っていただき、対話・助言をする中から計画的に相手先との交渉を行い、発信相手の意見を取り入れた準備ができるよう配慮していった。

(4) 評価結果

実践の準備段階で書いた「ふりかえりカード」の記述内容から評価した結果、以下のようになった。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
関心・意欲・ 態度②	実践のための準備に意欲的に取り組もうとする。	29人	7人	0人

(5) 指導の改善と実施

学習活動1の「追究の計画づくり」から、生徒一人一人に追究計画をしっかりと立てさせ、計画に基づいて行動するということを繰り返し行ってきたこともあって、発信の準備では、計画以上のことも進んで行う生徒の姿を見ることができた。評価2とした生徒7名は、紙芝居や劇作りに手間取ったため、3つ以上の作業を行うことができなかった生徒である。この後、総合学習に時間だけでなく、家庭に持ち帰ったり、休日に学校へ出てきて、作業を進めていった。

学習活動3 ③発信活動をする。

(1) 指導・学習の過程

これまでの準備をもとに、グループごとに発信する側と相手先に分け、練習する時間を設けた。互いに相手の立場に立って「この部分の説明が分かりにくいから、もっとやさし


くした方がいい」「はじめのあいさつから、しっかりやっていると自分達の気持ちは伝わらない」といったアドバイス交換を行った。そして、小学生、保育園児、老人ホームのお年寄り、一色町の人を対象に発信活動を行った。

資料 発信活動の实践を終えて書いた「ふりかえりカード」(グループ内)

開け、世界への扉

ふりかえりカード

3年 2組

日	活動のめあて	ふりかえり
12月12日	自分の役割に責任を持ち、準備した発信活動に取り組むことができる。(他己評価)	<p>めあてに対して</p>  <p>3 自分の役割を果たし、仲間とも助け合いながら発信活動に取り組んでいる。</p> <p>2 自分の役割を果たしながら、発信活動に取り組んでいる。</p> <p>1 自分の役割を果たして発信活動に取り組</p> <p>評価 真美さんは、自分がやる、がみしいを認めた。 私の分担の説明する時も、補足してくれたから。</p>

(2) 評価結果

発信活動の实践を終えて書いた「ふりかえりカード」(グループ内)の記述内容から評価した結果、以下ようになった。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
関心・意欲・態度②	自分の役割に責任を持ち、準備した発信活動に取り組もうとする。	36人	0人	0人

(3) 指導の改善と実施

関心・意欲・態度の評価をふりかえりカードで自己評価すると、どうしても一人よがりな評価になりがちであると考え、他己評価という形で、グループ内の仲間の活動をふりかえった。全員が「自分の役割を果たし、仲間とも助け合いながら発信活動に取り組んでいる」という3の評価をした。これは、追究場面で「何とかしたい」といった切実感を持たせることから始まり、ここまで評価・指導を繰り返し行ってきたことが、生徒の関心・意欲・態度となっていることを感じる。

(4) 評価結果

発信活動の实践を終えての学習カードの記述の内容から評価した結果、以下ようになった。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
思考・判断②	実践をふりかえり、本時により効果的な発信活動に改善する方法を考えている。	36人	0人	0人

(5) 指導の改善と実施

1回目の発信活動の後、グループ内で反省会を持ったことにより、一人一人が実践を振り返り、また、グループ全体としても、発信活動を見つめ直すことができた。そして、2回目の発信活動へ向けてより効果的なものに改善することができた。

学習活動4 ①活動を通して学んだことを話し合う。

(1) 指導・学習の過程

発信活動の様子と感想を出し合うとともに、「開け！世界への扉」をこれまで学習してきた話し合いの時間を持った。予め感想に書いたものを座席表にまとめ、配布することで、一人一人の考え気持ちをクラスのみんなが知らせ、単元の途中より、ゲストティーチャーとしてずっと関わってきた榊原先生もお招きしての時間とした。

資料 話し合いを終えての学習カード

でも、生きる姿としては、一生懸命に生きてきた方か
 何倍かいいと思う。だから私たちは、自分たちの生き方も考えなければ
 いけないと思う。何の不自由もないから、それでいいんじゃないか
 何の不自由もないから、もっと充実した生き方ができるはず。

(2) 評価結果

話し合いを終えての学習カードの記述の内容から評価した結果、以下のようになった。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
思考・判断③	これからの世界の子供達の実態と自分や地域の生活との関わりを考えることができる。	34人	2人	0人

(3) 指導の改善と実施

34名の生徒が、3の評価となった。ここまで指導と評価の一体化をめざし、何度も立ち止まり、実践を進めてきた成果だと考える。

(4) 評価結果

話し合いを終えての学習カードの記述の内容から評価した結果、以下のようになった。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
知識・理解②	世界の子供達に対する取り組みや対策などから、世界の子供達を支援するための工夫や苦勞を理解する。	34人	2人	0人

(5) 指導の改善と実施

追究の途中で、世界の子供達のために活動している「人から学ぶ」活動をしているY子を紹介し、国際ボランティアとして地雷撤去やストリートチルドレンなど世界の子供達について愛知万博で出展を計画するなど多方面に渡って活動されている榊原先生との出会わせた。

これは、生徒達にとって本当に衝撃的であり、これまでの追究を支えてきたと感じている。「世界の子供達に対して、君達は何ができる？何をすべき？」「この思考や議論が、大事なんじゃないですか？ここからがボランティアだと思うんですよ。」という言葉に出会い、「本当に彼らは君達より、不幸か？」など、国際ボランティアとして活躍される榊原先生の生の声が、対話が、関わり合いが、今回の評価結果につながっていると感じた。



「生き方」について話をされる榊原先生

学習活動4 ②地球市民として、これから自分にできることをまとめる。

(1) 指導・学習の過程

最後に、「同じ地球に生きる人間として、これからあなたはどのようにしていきますか」と問いかけ、作文を書いた。

資料 作文

私は、今まで自分が幸せだと思ってました。おいしいごはんも食べれるし、毎日学校に行く。組の仲間と楽しく生活できるし、温かい所にもおれるし、家族も友達もそばにあるから、これ以上に幸せなことはないと思ってました。でもよく考えると、自分には夢もないし、目標もないし、ただ単に平凡に生活しているだけでした。それを気づかせてくれたのは、榊原先生だと思ってます。小学校の時、ずっと保育園の先生になりたいと思って、夢がありました。でも、中学に入ると、その夢は消えちゃって、今は本当に目標がない人間になってしまいました。そんな私と比べて、ストリートチルドレンの子供たちは、必死に毎日生きてるし、危険な目をしてでもお金をためて、ちゃんとおいしいごはんを食べたいとかそういう夢をもってるから、材料も

もって自分の生きかたに満足し、ちやいかなる生活(生活)日本の生活+ストリートチルドレンの子の目標にたどり着くことと手を取り合おうとしますが、私は本当に最高の生きかたができると思います。ストリートチルドレンの子たちよりは、やっぱり、私たちのほうが恵まれた環境で育つことができるので、もっと必死に人生を生きていきたいです。先生が、「榊原先生が一番生きかたを考えた人生を送ってる。」と言ってたけど、私もそう思います。人のためや、世の中のために働くつもりで、もしそうを榊原先生を見ると、本当にそういう人生をうらやましく思います。私は、まだ人のために動いたりするのは、本当に苦痛がなくていいと思ってる。もって成長したら、絶対に人のために何かしてあげたいです。大人になりたいです。この総合学習を通して、本当にいろんな事が学べてよかったです。中学校生活最後の総合学習で、生きかたについて学んだので、本当に役立たせたいです。

榊原先生ありがとうございました。

(2) 評価結果

作文の記述の内容から評価した結果、以下ようになった。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A(3)	B(2)	C(1)
思考・判断②	これまでの追究をふまえ、地球市民として、今後の自分の生活を考え、自分にできることをまとめることができる。	34人	2人	0人

(3) 指導の改善と実施

単元の初めは、「自分達の同じくらいの年の子供が、その日食べるものにもすごくかわいそう」「寒い中、着る物にも困っているストリートチルドレンに、物を送ってあげたい」といった自分達は裕福で恵まれているといった考えが大多数を占めた。しかし、追究を重ね、深めていくうちに、裕福な日本に生まれ、その上にあぐらをかき、慣れきってしまっている自分の存在に気づくことができた。作文中の「どんなに貧しくても、夢を持って生きている彼らから学びたい」や「彼らを見習って、私も一日一日を一生懸命、必死に生きていきたい」からもそれは分かる。作文の発表会とともに、作文集にまとめ、単元のまとめとした。



作文発表会の様子



自分の生き方を考え、将来の夢を語る生徒

2-2 自己学習力の向上に向けた評価の工夫

(1) 第1レベルの工夫

(2) 第2レベルの工夫：自己評価の積み重ねによる成果

こだわりの追究課題設定から、追究対象を明確にするための仲間とのかかわり合い、追究活動などを通して、生徒の追究を進めてきた。そして、生徒Aは自ら次の学習への目標をもち、よりよい実践へとステップアップする実践力を身につけることができた。この背景には、自己評価カードの活用が大きいことが考えられる。

まず、単元の前半と後半を比較すると、生徒Aの実践力の高まりが見られる。前半、生徒Aは、めあてに対する評価基準を決めた理由も次の活動に向けての目標も明らかに漠然とした内容で書いている。これは、まだカードの記入に慣れていないことも理由として考えられるが、きちんとふり返りをし、次の学習につなげる力が備わっていないことを表し

ていると考えられる。そして、自己評価カード記入にも慣れ、単元も終末に入った後半では、記入されている内容が飛躍的に進歩した。

自らの学びをふり返り、新たな目標をもって追究を進めていくための自己評価をねらいとした自己評価カードを、単元を通して行った成果が、生徒Aの自らの学びをふり返り、次の学びへとつなげる実践力につながったといえる。

2-3 外部への説明責任に向けた評価の工夫

(1) 単元における総括的評価結果

本単元における観点別の総括的評価は、「関心・意欲・態度」については学習活動2-①と3-③の評価結果の総和で、「思考・判断」については学習活動2-②と4-①②の総和で、「技能・表現」については学習活動2-②と3-②の総和で、「知識・理解」については学習活動2-③と4-①の総和で行うことにした。以下の通りである。

①「関心・意欲・態度」について

観 点 \ 評価基準	A(3)	B(2)	C(1)	合計
関心・意欲・態度①(学習活動2-①)	7人	27人	2人	36人
関心・意欲・態度②(学習活動3-③)	36人	0人	0人	36人
計	43人	27人	2人	72人

表より、学習活動2-①においては、評価結果AとBの生徒を合わせ、34人(94%)であった。それは、追究計画をしっかりと立てた上で、追究を始めた結果であると思われる。なお、Cの生徒が2人いたが、「仲間の追究に興味を持ってしまい遅れた」という生徒が1名、「共同作業で、友達にたよりきってしまった」という生徒が1名であったため、個別に対話をしたところ、計画に基づいて追究することができた。

学習活動3-③では、評価結果C、Bの生徒は一人もおらず、全員がAであったことは、大変注目される。発信活動にいたるまでの自分の追究に自信が持てたこと、準備、交渉など、段階をおって進めたことで、「知らせたい」という強い意欲をもって発信活動に臨めたことから考えられる。

このようなため、関心・意欲・態度の発達を全体としてみると、評価結果B以上が、70名(97%)であり、十分な学習効果があったと考える。

②「思考・判断」について

観 点 \ 評価基準	A(3)	B(2)	C(1)	合計
思考・判断①(学習活動2-②)	28人	8人	0人	36人
思考・判断②(学習活動4-②)	34人	2人	0人	36人
思考・判断③(学習活動4-①)	34人	2人	0人	36人
計	96人	12人	0人	108人

表より、学習活動2-②においては、「手紙、服、募金を送る」という考えから「本当

にそれがいいのか？」と関わり合いを持ったことで、仲間の考えから追究方法を見直すことができた生徒は、評価AとBの生徒を合わせ、36名（100%）となり、十分に達成できていた。

学習活動4-②、学習活動4-①においては、全員が評価結果B以上であった。中でも、評価結果Aの生徒がともに34名（94%）いた。このような結果から、振り返りの時間を十分に確保したことと、国際ボランティアとして活躍される榊原先生の生の声を聞いたことが「今の自分を見つめ直し、今後の生活を考えること」「世界の現状と今の自分の生活との関わりを考えること」につながったと思われる。

このようなため、思考・判断の発達を全体としてみると、評価結果B以上が、108名（100%）となる。本単元は、十分に効果を上げることができたと考える。

③「技能・表現」について

観 点 \ 評価基準	A(3)	B(2)	C(1)	合計
技能・表現①（学習活動2-②）	15人	21人	0人	36人
技能・表現②（学習活動3-②）	16人	20人	0人	36人
計	31人	41人	0人	72人

表より、学習活動2-②では、評価結果B以上が36名（100%）であった。この結果から、全員の生徒が、中間発表会において、調べてきたことを分かりやすく仲間に伝えることができた。これは、発表の準備段階において、学習プリントを追究課題、調査の方法、結果、考えたこと、今後の課題と項目だてて書かせたことが有効であったと思われる。

学習活動3-②においても、評価結果B以上の生徒が36名（100%）であった。普段、人前で話したり、仲間と協力することが苦手な生徒も、追究成果を誰に伝えるかによって班編制を行い、誰がどの段階でどんな活動を行うか考えた準備計画を立てたことが、効果的であったと思われる。

このようなことから、技能・表現の発達を全体でみると、評価結果B以上が、72名（100%）であった。十分に満足できる結果であると考えられる。

③「知識・理解」について

観 点 \ 評価基準	A(3)	B(2)	C(1)	合計
知識・理解①（学習活動2-③）	30人	6人	0人	36人
知識・理解②（学習活動4-①）	34人	2人	0人	36人
計	64人	8人	0人	72人

表より、学習活動2-③、学習活動4-①の両活動とも、全員が評価結果B以上であった。生徒達は、追究活動や発表、仲間との話し合い、関わり合いを通して「世界の子供達の現状」「支援するための工夫や苦勞、社会問題」への認識をより確かなものにしていったと考えられる。

(2) 単元における個人内評価結果

次に、生徒A、生徒Bの2名を事例にしながら、個人内評価結果の特質について検討することにする。そのため、まず、2人の生徒の〈個人評価結果表〉を紹介すると、次のようである。

〈個人評価結果〉

		学習活動1			学習活動2			学習活動3			活動4		評 定
		①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	
生 徒 A	関心意欲態度	3			3				3	3			A
	思考・判断		2	2		3		3		3	3	3	A
	技能・表現				2	3			3				A
	知識・理解				3		3				3		A
生 徒 B	関心意欲態度	1			1				3	3			B
	思考・判断		1	1		2		2		3	2	2	B
	技能・表現				1	2			2				B
	知識・理解				1		2				2		B

注：評定は、総括的評価結果に基づき、Aは80%以上相当、Bは60%～79%相当、Cは59%以下相当の達成状況を示している。

① 観点間経時的評価

生徒Aは、前半の学習活動1と2では、思考・判断と知識・理解は、ともに3という高い水準の発達を示し、思考・判断と技能・表現はほぼ2であるが、次第に上昇するといった構造的な発達特質をみせている。とりわけ思考・判断と技能・表現に関連していえば、ゲストティーチャーとして国際ボランティア等多方面で活動される榊原先生との出会いが、発達の向上へと導いたことが示唆される。実際、学習活動3、4になると、4つの観点ともに3という高い水準の構造的な発達の特質がみられる。なお、評定も4つの観点ともにAであった。

なお、生徒Aと類似の構造的な発達特質を示す生徒は、他に5名いた。

生徒Bは、学習活動2の①まで、4つの観点すべてにおいて1の状況であった。しかし、活動が進むにつれ、どの観点も次第に向上を示している。学習活動3、4になると、関心・意欲・態度は3、他の3つの観点もほぼ2という構造的な発達特質をみせている。指導と評価の一体化をめざし、評価後、常に個別的な指導を重ね、生徒Bに寄り添った支援をしてきたことが、このように大変効果的であったと思われる。なお、評定は4つの観点ともにBであった。

なお、生徒Bと類似の構造的な発達特質を示す生徒は、他に2人いた。

② 観点内経時的評価

生徒Aは、「関心・意欲・態度」と「知識・理解」をみると、それぞれ3→3→3→3、3→3→3というように、ともに3という高い水準の発達のまま推移しており、評定もともにAであった。何にでも大変前向きに取り組む本人の特質がよく表れている。一方、「思考・判断」と「技能・表現」をみると、それぞれ2→2→3→3→3→3→3、2→3→

3というように、ともに学習活動の進展につれ尻上がりに向上し、高い水準のまま学習を終了している。評定も、ともにAであった。追究の途中からの榊原先生との出会いが、指導の改善として大変有効であったことを示している。

生徒Bは、「関心・意欲・態度」をみると、1→1→3→3というように、後半の学習活動から、それまでの1から3へと急上昇し、そのまま学習を終了しており、評定もBであった。何事にもあまり興味や関心を示さない生徒Bであるが、発信活動において、追究してきたことを保育園児に紙芝居で伝えるという活動が、興味・関心を高めることにつながったものと考えられる。「思考・判断」においては、1→1→2→2→3→2→2というように、1から2へ、さらに3へと上昇し、学習活動4からは再び2へと下降するといった出入りの多い発達傾向をみせている。なお、評定はBであった。一方、「技能・表現」「知識・理解」は、ともに1→2→2というように、1から2へと伸びたまま推移している。評定はともにBであった。友達の追究を聞いたり、情報交換や意見交換を行ったことが、本生徒の追究を見つめ直すことにつながったものと判断される。